

学会記事

日本きのこ学会第 25 回（2022 年度）大会報告

日本きのこ学会第 25 回大会を 2022 年 9 月 26 日～28 日に宇都宮大学農学部を主会場として対面方式で開催致しましたので、その概要について報告致します。主会場である宇都宮大学農学部は、栃木県宇都宮市の JR 宇都宮駅からバスで 10 分程度の立地場所です。実行委員の活動のし易さや会場費の点等を考慮しまして、宇都宮大学農学部で開催することに致しました。

本大会では、3 年振りの対面方式で行いましたが、コロナウィルス感染状況によってはハイブリッド方式も念頭において準備を進めてまいりました。幸いなことに、何とか 3 年振りの対面方式で行うことができました。発表会場は主会場を 1 箇所、そしてオンライン参加可能な会場を近くに 1 箇所、設営致しました。学会賞等授賞式、受賞記念講演、

及びシンポジウムは、例年通り開催致しました。しかしながら、懇親会につきましては、コロナウィルス感染防止のため中止とさせて頂きました。その代わりに、ポスター展示交流会の場を設け、ここで歓談等をして頂くように設定致しました。

前回大会から 6 ヶ月しか経過していなかったため、参加者が少なく、発表数も少なくなるのではないかと心配されました。しかしながら、当日参加も含めて 149 名もの参加者数で、一般発表は 42 演題、ポスター展示は 22 演題となり、実行委員会の面々も胸をなで下ろしました。対面方式だったので、質疑討論も活発となり、3 日間とも予定時間を過ぎてしまい、休憩時間の調整等を行う必要がありました。



横田大会実行委員長挨拶



会場の様子



学会賞等授賞式



ポスター展示・交流会



シンポジウム



学生優秀発表賞

今回実施した受賞記念講演の演題等は以下の通りです。受賞された皆様、誠におめでとうございます。今後の益々の御活躍を祈念しております。

W-1 奨励賞

鮫島由香 氏 羽衣国際大学
「担子菌による機能性成分生産に関する研究」

W-2 技術賞

原田 陽 氏 北海道立総合研究機構
「新たな地域資源の菌床栽培への活用と
機能性成分活用の技術開発」

W-3 学会賞

会見忠則 氏 鳥取大学
「二極性きのこの交配型遺伝子に関する研究」

また、本大会では優秀学生発表賞の審査も同時に行いました。本大会で授与した賞は以下の通りです。受賞された皆さん、おめでとうございます。今後の益々の研究の進展を期待しております。

最優秀学生発表賞

A10 古田島美颯 静岡大学創造科学技術大学院
「コムラサキシメジにおける AHX と
AOH の生合成研究」

優秀学生発表賞

A4 手嶋 琢 山口大学大学院創生科学研究科
「担子菌ジオキシゲナーゼはキノコ香気成分
1-オクテン-3-オールの生成に必須である」

A6 齋藤すずな 鳥取大学農学部
「きのこ廃菌床を利用した土壌還元消毒法による
土壌病害の抑制効果」

A13 小野晶子 東京農工大学大学院連合農学研究科
「新規サナギタケ由来レクチン (CmLec4) は
宿主への感染と子実体形成に関与する」

授賞式の後、学会長を交えて記念撮影を行いました。受賞者の皆様は、受賞の喜びで笑顔に溢れていました。

本大会は3年振りの対面による大会となり、松井学会長

をはじめ、多くの参加者の皆様から対面での大会を非常に喜んでおられることが分かりました。残念ながら懇親会は中止とさせて頂きましたが、その代わりに開催したポスター展示・交流会では、多くの方が質疑討論され、また懇談を深めておられました。特に、発表されていた学生の皆様にとっては、多くの方との交流によって、自分なりのネットワーク作りとなり、非常に有意義なものとなったことと思います。改めて、対面による学会大会の良さを認識した次第です。

私事ですが、恥ずかしながら、日本きのこ学会に入会したのが今年の7月であり、まだ新入会員です。そのため、学会大会に参加するのも今回が初めてでした。一般発表を聴講して気づいたのですが、質疑・討論が非常に活発であり、感銘致しました。学会によっては、聴講者からの質問が全く無く、座長の方が困っておられる状況を良く目にしますが、本学会大会では、そのようなことが全く有りませんでした。発表内容も、きのこの生理、生態、生化学、分子生物学、機能性・生理活性物質、栽培、食品への応用など、きのこに関する非常に広範囲な分野に亘り、聴講して大変勉強になりました。

大会としては懇親会を開催しませんでした。皆様個別にコロナ対策をされながら、懇親を深められたことと思います。大会最初の挨拶でも述べましたが、宇都宮市は、餃子、ジャズ、カクテルで有名な街です。また、栃木県はきのこ生産も盛んで、シイタケが全国9位、マイタケが9位、ヒラタケが8位の生産量となっています。栃木県産のきのこを食事やお酒のおつまみとして、餃子、ジャズ、カクテルを堪能された方もおられると思います。また、4軒もの餃子の店を訪れて、餃子を賞味された参加者もおられました。さらに、栃木県や福島県あたりしか賞味しない、チチタケを使ったチチタケそばを召し上がった方もおられるのではないかと思います。多くの参加者の皆様が、栃木県の食材を堪能されながら懇親を深めて頂いたことは、実行委員会として望外の喜びです。

今回の第25回大会は、一般社団法人化後の最初の大会となり、また、3年振りの対面での大会となりました。新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、最終的には対面方式で行う決定など、様々な対応や決断を求められることがありましたが、第25回大会を無事に終えることが出来ました。これも一重に会員の皆様の寛大なる御理解と御協力、及び団体会員の皆様の広告掲載の御協力の御陰であり、心より感謝申し上げます。本誌面をお借りしまして御礼申し上げます。

(大会実行委員長 宇都宮大学農学部 横田信三)